

こもれび

冬

第24号

発行：2010年1月1日
向陽台病院広報委員会



初日の出
未来の夢を
写し出す



イラストと句は患者さんの作品です



理事長・院長
横田 周三

新年あけましておめでとうございます。謹んでお慶び申し上げます。

さて、昨年の向陽台病院は日本医療機能評価機構の更新の年であり、9月末に各部門の責任者が全スタッフ協力のもとVer.6での受審をしました。2回目ということはあっても、スタッフの入れ替わりがあったり、前回との職位の違いなどもあり、皆にとって新鮮な発見になったようでした。また、今年7月完成予定の体育館の新築に伴い、昨年末から昭和年代に建てられた旧北病棟を取り壊す工事が始まりました。体育館完成後には、外来・入院患者さんの利用を中心に、地域の方々への提供の仕方を模索しながら、私たち職員の健康増進のためにも活用できれば、と考えています。そして平成22年3月には、昨年6月に決定した植木町の熊本市合併という新しい事業が始まり、渦中の当院は、変化に対していくつかの判断を求められるのではないかと考えています。今まで以上に注目も批判も（良い意味も悪い意味も）浴びることになるのでは、との思いと、熊本市になることに少し複雑な思いがあります。私たちが46年もの間、精神科医療を施すうえで、もちろんお叱りも受けましたが、基本的には支えていただき、ご指導くださったさまざまな機関に色々な思い出があります。また、地域の方々には大変お世話になってきました。（実在は変化しないので、地域の方々と一緒に引越すような感じなのでしょうが）これらのご恩はなかなか直接お返しできるものではないと思っていますが、新しい世代・後進などの指導、そして新しい地域発展という形など還元の形を模索していこうと考えています。数年前からの課題なのですが、“当院で何ができるか？”を検討しつつ、新しい変化に備えていきたいと考えています。私たちはこれから地名が変わっても皆さまにはご迷惑をかけつつ、また、お世話になっていくことと思います。今年もよろしくお願い申し上げます。（2010年 元旦）



病院機能評価受審を終えて

事務部 左座 道也

(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価(Ver.6.0)の訪問審査を9月29日(火)から10月1日(木)の3日間、受審しました。平成17年1月に病院機能評価(Ver.4.0)を初めて受審し、今回は更新(5年に1度)のための受審でした。そもそも、質の高い医療を効率的に提供するためには自院における努力が重要であり、そのためには自らの機能进行评估する、いわゆる自己評価が実施されます。そして、さらにこうした努力をより効果的なものにするために、第三者による評価を導入する必要性があります。

そこで、(財)日本医療機能評価機構に学術的・中立的な立場での評価を委ねています。

病院機能評価を受審することで、次の効果が挙げられます。

①自院の位置づけを客観的に把握でき、改善すべき目標がより具体的・現実的になる。

②自院について、幅広い視点から、またこれまでに蓄積された情報を踏まえて、具体的な改善方策の相談・助言を受けることができる。

③職員の自覚と意欲の一層の向上が図られ、経営の効率化が推進できる。

④患者さんが安心して受診できる医療機関を増やすことになり、地域における医療の信頼性を高める。

以上のことを踏まえて、当院では平成20年4月から病院機能評価対策委員会(メンバーは各部の主任以上)を立ち上げ、受審に向けて始動しました。また、全職員に対し、よりよい医療の提供・よりよい環境づくりに継続して取

り組むための研修会も開催しました。

受審3日間は、病院の組織運営、医療の質、安全の確保、療養環境、患者サービス、ケアプロセス、精神科における機能など7領域を、それぞれのマニュアルや規程、手順、記録、分析、改善などの評価項目ごとに4名のサーベヤー(評価調査者)が評価を行いました。受審結果(平成21年11月13日現在)はまだ手元には届いておりませんが、サーベヤーの講評ではまずまずの結果が得られたと思っています。

最後に、病院機能評価を受審して、日ごろの業務の取り組みや第三者(サーベヤー)から指摘を受けた点、改善や工夫する点など多くのことを学び、改めてそれぞれの立場で考えさせられたよい機会だったように思います。

就労継続支援B型事業 Worksみらい

大型のプリンタとカッティングマシンを導入しました!

今回は印刷作業についてご紹介させていただきます。

印刷作業は主に向陽台病院からお受けした印刷物を輪転機という機械で印刷しています。名刺印刷に関しては、近隣の会社の方からも依頼を受けることも多くなってきており、Worksみらいの商品として永くご愛顧いただけるように特に力を入れています。デザインから用紙までご要望に沿って製作し、1枚当たり12円からお受けしております。

今年は熊本県の事業を利用させていただき、大型のプリンタとカッティングマシンを購入しました。新聞紙を広げた幅(約60cm)の用紙に垂幕や横断幕、ポスターなどをきれいに印刷することができます。カッティ

ングマシンはその名の通りさまざまな用紙を切り抜き、シールやステッカーを作ることができます。

年末は、年賀状の印刷作業が中心となっています。印刷単価を下げながらも、多彩なサンプルの中からお選びいただき、丁寧な印刷を心がけています。

これからも、さまざまな商品を作ることができるように利用者、スタッフが一丸となって努力して参りますので、ぜひご利用いただきたいと思います。

(Worksみらい 所長 阪本 匡聰)

★問い合わせ先: 電話096-272-7759 (担当: 大嶋)

新病棟のご紹介

北2病棟 慢性期を過す環境



Cゾーンのデイルーム

一昨年10月にオープンした新病棟を南病棟と呼称するに伴い、旧南病棟は北病棟と名称変更され、そのうち、2階全体を新たに男女混合の療養病棟として活用しています。この病棟には、急性期治療を経て亜急性期治療の後もさまざまな理由で自宅復帰が困難な状態にある方々のうち、比較的身体機能が保持されている方を中心に利用してい

ただいています。閉鎖病棟と開放病棟の双方を備え、隔離室を含めた閉鎖処遇エリアをAゾーン（8床）、テレビ視聴や食堂を兼ねるデイルームを持つ閉鎖処遇エリアをBゾーン（26床）、夜間以外常時開放処遇となるエリアをCゾーン（26床）と、計60床を3つのゾーンに分割しています。その中央にスタッフステーションを配置し、各ゾーンからのスタッ

フの動線を短くすることで、患者さんへの対応が可能な限り迅速となるよう工夫しております。Aゾーンでは、慢性期にある患者さんの急性増悪時に、病棟移動することなく隔離室や個室で対応することができます。精神状態が不安定となった

場合、兼ねてからの担当スタッフのもとで治療を継続することができることは、患者さんのみならず、ご家族の方々にも安心を提供できるものと思っています。



Bゾーンのデイルーム

BゾーンとCゾーンでは、デイルームやエレベーター前ホールなどを可能な限り広く配置して他の患者さんや面会者との交流が図りやすい環境を提供し、より開放的な環境を体験していただき、退院への足掛かりとなるようにしています。しかし、長期入院から退院へ進めていけるケースはまだまだ少なく、身体機能の維持と精神状態の安定を図ることで精一杯の日々であるという現実もあります。今後も、患者さんが持っている健康的な力を引き出していけるよう、スタッフ一同努力して参りたいと存じます。

（診療部 医師 松本 宏美）



Cゾーンの病室



デイケアコーラスの様子

文化祭に参加して

11月3日（火）に、向陽台病院文化祭を開催いたしました。

当院の文化祭は私にとって入職して初めての経験であり、どのような行事なのか楽しみにしていました。今年度の文化祭は以前までとは少し異なり、新型インフルエンザが流行しているということもあって、小規模での開催となりました。リミューエルをメイン会場とし、内容としては出し物のデイケアコーラスから始まり、食バザーやフリーマーケットなどの催し物がありました。当日は午後からのスタートで、快晴にも恵まれ、約150名が参加されました。食バザーでは、たこ焼きやアメリカンドッグ、栗ぜんざいの販売を行いました。売れ行きは早く、患者さんやご家族の方々と賑わっていたように感じました。他にも展示会やお楽しみ抽選会がありましたが、同様に賑わっており、食バザーの後に開催されたフリーマーケットでは長蛇の列がで

きるほど熱気に溢れていました。デイケア利用者、入院患者さんの表情は良く、笑顔も多く見られ、私自身も楽しいひと時を過ごせたと思います。

今回の文化祭に参加していろいろと感じたことがありました。また、患者さんや、普段お会いする機会の少ないご家族の方々と触れ合えるいい時間でした。患者さん同士で楽しそうに話されていたり、自分自身も楽しむことができたりと、とても良い雰囲気であったと思います。

終了後に患者さんに感想を聞いたところ「楽しかった」「おいしかったです」といった言葉を聞くことができ、素直に良かったと感じました。また、患者さんやスタッフの方々のご協力で大きな事故はなく、無事に終わることができ、私自身も貴重な体験をさせていただいたと感じています。

自分自身を振り返ってみると、今回が初めての体験であり、準備や、役割が十分把握できておらず、周囲がよく見えていませんでした。来年は今年の経験を生かしてさらに思い出に残るような文化祭になるようがんばりたいと思います。最後にご協力いただいた患者さんやご家族の方々、職員の皆さまに深く感謝いたします。

（看護部 看護師 荒木 高浩）

熊本市地域精神障害者スポレク大会

11月6日（金）に第16回ふれあいピックが開催されました。新型インフルエンザの影響で例年より600人少ないという状況でありましたが、「新町きぼうの家」利用者のパワー満ち溢れる明るい声での開会宣言で、会場内の温度を温めてくれました。いつもは、消極的な方も競技になるとスイッチが切り替わり、積極的に参加し、本来の力を発揮され、表情も輝いて見えました。初対面という間柄でも自然な笑顔であいさつや会話が交わされている姿が印象に残っています。また、県内一同に集まり顔を合わせることで再会し、お互いによい刺激となっていたのではないのでしょうか。これからも人との繋がりを大切にしていきたいものです。

（リハビリテーション部
精神保健福祉士 後藤 加菜）



綱引き

スポーツを通して

10月8日(木)に、デイケアメンバーから18名が、鹿本スポーツレクリエーション大会(ミニバレーボール)に参加しました。前日から台風18号が接近しており、メンバー・スタッフ共に天気を心配していましたが、その心配をよそに台風は通り過ぎ、絶好の大会日和となりました。会場は植木町立体育館で、他の病院・施設の方とそれぞれ合同でチームを作り試合が行われました。初めは、知らない人とチームを組むとあって緊張している

方が多く見られましたが、試合が進むにつれ、笑顔で声を掛け合いながら試合を楽しまれていました。試合後、勝ち負けはありましたが、メンバー同士で自分のチームの健

闘を嬉しそうに話す方が多く、今年の思い出の一つになったのではと思います。

(リハビリテーション部

作業療法士 宮崎 裕一)

大会に参加された皆さん



第17回精神障がい者作品展示に参加して

11月15日(日)精神障がいの疾病を正しく理解していただき、また社会参加を促進する事を目的とした、精神障がい者作品展示がありました。病棟・デイケア・なでしこの各作品をスタッフ6名が展示してきました。アーケード内に33団体の多数の作品が展示されており、活気ある雰囲気でした。場所が上通りアーケードということもあり、病院関係者だけでなく、多くの一般の方も作品に興味を持たれていました。一般の方は、「売り物ですか? 買いたい

です」と言われる方も多く、他の病院のスタッフからは「参考にさせていただきます



なでしこスタッフと「啓発感動賞2位」受賞作品

す」と言われ、写真を撮っていくなど嬉しい反応が多かったです。

この展示会では各団体が審査を行い、上位4団体に表彰がありました。多くの参加団体がいる中、去年に引き続き、なでしこが啓発感動賞(2位)を受賞しました。なでしこは、植木町の福祉マップを作成し病院付近の施設を紹介しました。私は今回、初めて作品展示に参加させていただきました。他の病院の作品を見る

機会はなかなかないので、工夫を凝らした作品を見て勉強になった部分も多く、当院を客観的に見る良い機会になりました。一般の方が作品をとおり精神障がい者について知ることや、地域と関わる場を設けることが大事だと改めて実感しました。

寒いなか見に来てくださった方々、ありがとうございました。

(リハビリテーション部

作業療法士 船津 多万恵)



病棟・デイケアスタッフ

第3回認知症家族教室 開催

●テーマ

家庭でできる予防とリハビリ



9月26日(土)第3回認知症家族教室を開催しました。この教室は認知症の方を抱えるご家族を対象として、年に4回開催しています。日々の介護の心労や、不安や戸惑いなど、普段なかなか話せないような思いをご家族同士で語りあうことにより、少しでもご負担が軽くなればと思っています。

その中で、認知症に関する理解を深めていただくために、前半に短時間の講義を行いました。今回は、「家庭でできる予防とリハビリテーション」についてお話する機会をいただき、5家族5名の参加(入院4名、外来1名)がありました。

最初に自己紹介の中でご家族の様子について話していただきました。お互い緊張した面持ちでしたが、講義が始まると真剣に話を聞かれていました。緊張感を解すために「簡単にできる運動」を紹介し、参加者の皆さんに普段の生活で取り入れていただけるように、実際に体を動かしました。



また、講義の中では「認知症の症状で多いもの」をリストアップし、ご家族の症状に当てはまるかチェックしてもらい、意見を聞きました。「同じことを何回も言ったりする」という項目に皆さん共感し、「ご飯を食べたか何回も聞いてくる」と話されていました。

最後に「リハビリテーションに大切なこと」として、①感情に訴えかける、②寝たきりにさせない努力、③プライドを傷つけないことについて説明すると、相槌を打ちながら興味深く聞かれていました。講義の後半には、実際に動作介助の練習を行いました。ベッドから起き上がり、車椅子に移乗するまでの介助方法を皆さんに体験していただきました。

ベッドと車椅子を用意し、スタッフが介助の説明を行うと皆さん興味深く聞いておられました。また、院内で車椅子を使用する際の動線でスタッフが話をしていると、実際に日常生活で困っていたり、不便に感じることで、

「車椅子から車に乗せる時が大変」という声を聞くことができ、新鮮な気付きとなりました。

ご家族の意見を元にスタッフが動作を行い、実際に体験、練習していただきました。実技を終えると、「見ているのと実際やっ

てみるのは違う」というご意見や、「車椅子を使う時に声掛けをしていなかったことがあるから、声掛けはしていこうと思う」「勉強になった。実際に体験もできたので今日は来て良かった」「プライドを傷つけないように注意していきたい」という感想を聞くことができました。

病院の中での様子しか知らない私たちスタッフですが、ご家族の方の意見を聞くことで、新たな発見や得る物が多く、私自身も勉強になりました。

ご家族同士のお話の中で泣いたり、笑ったりしながら、人には話せず一人で悩んでいた思いを語り、共感することでご家族の心理的な支えになると感じています。介護の中での苦悩や、嬉しい瞬間など、長く介護をされている方から初心者の方へのアドバイスをする場ともなっています。

今後も認知症家族教室の中ではご家族の意見を取り入れて、サポートしていけたらと考えています。皆さんのご参加お待ちしております。

(リハビリテーション部

作業療法士 田中 麻莉)

認知症家族教室に関するお問い合わせは精神保健福祉士までお気軽にお尋ねください。

こもれびプラザ

向陽台病院ではさまざまな情報を発信しています



栄養だより

新年あけましておめでとうございます。乾燥しやすい冬の時期は、肌にとって厳しい季節です。美肌に欠かせない栄養を料理に取り入れ、体の中から美しくなりましょう。

<美肌を作る6つの栄養素>

乾燥肌の味方 **ビタミンB2**

⇒ビタミンB2は脂質の代謝や細胞の再生に必要なビタミンです。肌の新陳代謝をよくし、みずみずしい肌を生み出せるようにします。

◆**ビタミンB2の多い食品**：卵、鰻、納豆、鯖など

美白肌を手に入れよう **リコピン、ビタミンC**

⇒しみやそばかすの原因となるメラニン色素ができるのをリコピンがおさえ、ビタミンCが、肌細胞に沈着するのを防ぐ働きをします。

◆**ビタミンCの多い食品**：ブロッコリー、カリフラワー、苺など

シミを防ぐ **βカロテン、ビタミンE**

⇒βカロテンやビタミンEは強い抗酸化力を持つため、肌を老化させる活性酸素の働きを抑制する効果があります。

◆**βカロテンの多い食品**：緑黄色野菜（南瓜、人参、ほうれん草など）

シワを防ぐ **コラーゲン**

⇒しわの原因は、加齢に伴い肌のコラーゲンが減少し、肌の弾力が失われることです。コラーゲンをとり、肌の老化を防ぎましょう。

◆**コラーゲンの多い食品**：牛すじ、ぶり、卵など

（診療部 管理栄養士 宮本 愛）



いよいよ新しい年のスタートです。
今年も広報誌をととして当院のさまざまな取り組みをお伝えできればと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（須藤 晶子）

動向を探る

向陽台病院を利用されている患者さんの動向を掲載しています。

（単位：人）

集計月	外来延数	新患者数	1カ月ごとの入退院者数	
			入院	退院
2009年 9月	2697	40	31	33
2009年 10月	2734	38	30	37
2009年 11月	2653	49	31	36

そよ風

10月24日（土）に、そよ風家族会を開催いたしました。

今回は「統合失調症」をテーマに、症状と治療についてのDVD鑑賞の後、バーチャルハルシネーションの体験をしました。バーチャルハルシネーションとは、統合失調症の症状である「幻聴」や「幻視」を映像として体験できるもので、ある男性が喫茶店に入って過ごす間に、幻聴や幻視の症状が現れてくるというシーンを見ていただきました。

ご家族の方から「大変勉強になった」「体験してみても、こんなに煩わしいものなのかと驚いた」などの反響をいただきました。

今後も、患者さんとの接し方や生活するうえでの工夫など、ご家族の疑問に、少しでも支えになるよう活動していきたいと思います。

（リハビリテーション部

精神保健福祉士 春木 あゆ美）

■次回家族会（予定）

平成22年1月23日（土）10:00～12:00

向陽台病院の理念

心を病む人の立場に立った専門的精神科治療の提供を行う

地域への精神科医療の啓発活動を通じて心を病む人のみならず、地域住民の心の健康増進に貢献する

- 地域の様々な資源との連携の強化を目指します—医療・福祉・教育・産業・地域社会と積極的な連携が出来るように—
- 良質で安全な医療の提供を目指します—相手の立場に立ち、私達が安心して自分の家族を任せられるように—
- 専門性を高め、より高度な知識・技術の向上を目指します。—新しい技術・知識の習得、研鑽を心がけるように—

外来担当医一覧表

※下記担当医は変更する場合もございます

	月	火	水	木	金	土
午前	非常勤医師	田中(隆) 松本	非常勤医師	田中(隆) 非常勤医師	横田 松本 非常勤医師	週替わり
午後予約	田中(亨) 非常勤医師	田中(亨) 非常勤医師	非常勤医師	村上	思春期外来 横田 佐藤	

(2010年1月1日現在)

- 診療科目 精神科・心療内科
- 特殊外来 もの忘れ外来
児童思春期(発達障害)外来
- 病床数 220床
- 外来診療時間 ※祝日は平常どおり診療しています
月～金曜日 午前9時40分～12時00分
午後2時30分～5時00分
●土曜日 午前9時40分～12時00分

新しく診療を受けに来られる方は予約が必要です

予約受付: 096-272-5250

<平日: 午後4時まで/土曜日: 午前11時まで>

【患者の権利】

1. 良質な医療サービスを平等に受ける権利があります。
2. 人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります。
3. 自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
4. 医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを自分で決定する権利があります。また、他の医療機関の医師の意見(セカンド・オピニオン)を求める権利があります。
5. プライバシーを尊重される権利があります。



産交バス

向坂バス停から
徒歩3分
明治乳業バス停から
徒歩3分

車

植木ICから10分

JR

植木駅下車
タクシーで6分



医療法人横田会 向陽台病院

〒861-0142 熊本県鹿本郡植木町大字鎧田 1025
TEL: 096-272-7211・FAX: 096-273-2355

<http://www.koyodai.or.jp/>

日本精神神経学会専門医研修指定病院 日本精神科病院協会認定専門医研修病院
2005年から日本医療機能評価機構の認定を受けています

